

ショートコメント vol.98 (2018年3月8日)

テーマ：インバウンドの消費を下支えする世界の堅調な株価動向
 ～円高の進行による悪影響を緩和～

●円高ドル安の進行

為替市場では円高ドル安の動きが進んでいる。今年の2月以降、1ドル=110円の水準を割り込み、足元は105円台となっている。円高の進行による景気への悪影響が懸念される中、まずは今次景気の牽引役である、企業収益や輸出に及ぼす影響が注目される。

それに加えて、円高がインバウンドの消費に与える影響にも注意が必要である。これは特に、関西では不可欠といえよう。今次景気では消費の回復が遅れているが、インバウンドによる活発な消費が、百貨店やホテル業界を中心にながりの恩恵をもたらしている。

インバウンドの動きについて、直近の1月の様子では、まだ円高の影響は確認できない。

例えば、百貨店の免税売上は全国、関西ともに堅調に推移しており、従来から大きな変化はない(図表1)。さらに、2月の春節商戦も概ね好調な動きが伝えられていることから、今のところは大きな影響はないといえよう。ただし、今後については注意が必要である。

●世界的な株価上昇の動き

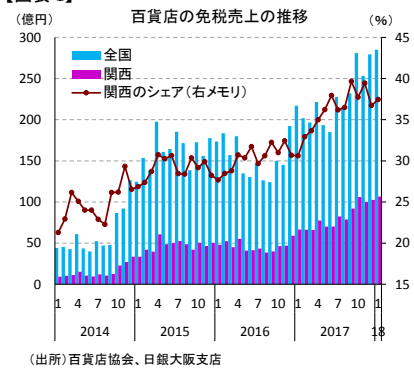
というのも、2016年前半の円高局面では、百貨店の免税売上に對する悪影響が確認された(図表2)。この期間も訪日数の増加トレンドは続いていたことから、1人当たり換算すると、売上は減少したことになる。その後、2016年末からの円安転換をきっかけに、免税売上も右上がりとなり、その動きは足元も継続中である。この傾向をもとにすれば、105円台やそれ以上の円高が続けば、いずれ悪影響が出ることは避けられない。

ただし、2017年以降の為替と免税売上の関係を見ると、そのトレンドが乖離していることも事実である。さほど円安傾向が進んだわけではなく、110～115円台の推移であったにもかかわらず、免税売上は大きく右上がりとなった。

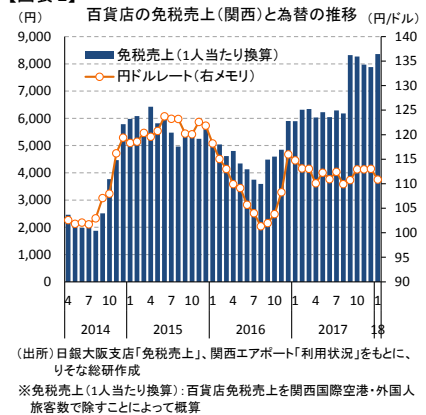
この右上がりの動きを支えた要素としては、世界的な株価の上昇が挙げられよう。

図表3のとおり、2017年をとおして世界的な株高傾向が続き、年間では約20%の上昇となった。この動きがインバウンドの購買力を押し上げた可能性が高い。

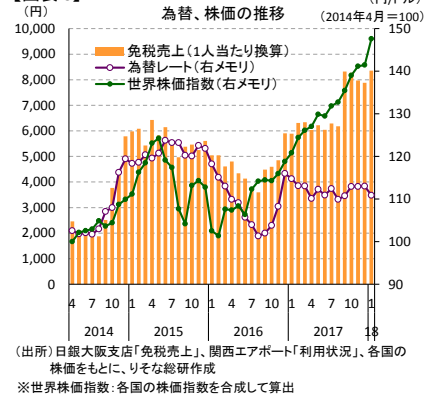
【図表1】



【図表2】



【図表3】



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

●円高下の株価下落に要注意

足元では、円高の動きが進んでいる一方、世界的な株価は堅調に推移していることから、ひとまずインバウンドの消費が急減する可能性は低い。注意が必要なのは、円高が進むと同時に、株価も下がっていく局面である。

その場合、これまで消費の増加トレンドが続いていただけに、その反動も大きくなる可能性が高い。当面は、世界的な株価の推移に注意が必要となろう。

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。